

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800267		
法人名	社会福祉法人 絆福祉会		
事業所名	グループホーム ふるさと桜		
所在地	兵庫県神戸市垂水区塩屋町6丁目38-15		
自己評価作成日	平成28年6月18日	評価結果市町村受理日	平成28年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>法人の理念である「みつめあう目と目、つなぎあう手と手、ふれあう心と心、人と人との絆を大切に」を理解し、入居者様、ご家族様とも信頼関係を構築できるよう援助をさせていただいています。地域との関わりを密に持つために、ボランティアの協力依頼や地域の店舗での買い物、地域行事への参加、地域の事業所とのコミュニケーションに力を入れています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成28年07月15日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業開始からまだ2年であるが、母体の法人が持つ豊富な経験と資源を生かして基本方針の「可能な限り家庭生活に近い生活環境を提供すること」に邁進している。法人の理念と事業所の基本方針に沿って策定した年度の事業計画を事業所ホームページで公表している。計画年度の年間目標を掲げ、その実践計画を展開し、実践を担う各職員は、さらに年間目標を定め、目的意識をもって業務を遂行している。地域との連携に関し、地域の「福祉センター」や法人の敷地内にある「あんしんすこやかセンター」との連携は強く、「介護リフレッシュ教室」で介護者の交流に協力しており、地域住民による健康体操などの活動には入居者は積極的に参加している。毎月「5」のつく日を「スマイルデー」と定め、入居者、職員ともに「笑顔を忘れない」活動を継続している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を各ユニットに掲示をし、毎年グループホーム事業計画を作成するにあたり、会議での説明や配布をすることで、年度の目標や内容の共有に努めています。	法人の理念は入口に掲示してある。事業所の基本方針は、「住み慣れた町でその人らしく慈愛に満ちた生活を支援する」としている。この達成のために年度事業計画を策定し事業所のホームページに公表している。	「理念」とは、事業所が目指すサービスのあり方を端的に示し、常に立ち戻る基本的な考え方です。この法人理念を基として、事業所の理念(覚えやすい標語等)を職員全員で作り上げることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加やボランティアの協力、地域の事業所との関わりを持つことで、地域の一員となれるよう努めています。	入居者と地域福祉センターのひな祭り、端午の節句等の季節行事や習字教室に参加して交流している。最近では、複数の近隣ボランティアの訪問がある。地域のあんしんすこやかセンターの介護リフレッシュ教室で入居者家族を含めた、介護者の交流にも協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度はあんしんすこやかセンターとの共同で、認知症ケアについての会議を開催しました。今年度も計画中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催している運営推進会議でのご意見をもとに、支援内容や業務の内容を検討しています。	入居者、家族代表、地域代表、知見者等が参加し、2か月に1回開催している。事業者から運営状況や入居者の日常生活状況の写真を見せて説明する。メンバーから地域のイベント等の紹介もある。毎回、意見交換が行われ、議事録はホームページで公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所での解決が困難な案件などが生じた場合は、神戸市や垂水区へ相談をさせて頂いています。また、地域の内容に関しては、あんしんすこやかセンターへ相談をさせて頂いています。	同法人が受託したあんしんすこやかセンターが同じ敷地内にあり、センター職員とは運営推進会議等を通して頻りに交流している。認知症ケアへの知見も深く、地域高齢者の動態や課題等の情報を共有し、課題解決に向けて連携していく体制を作っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命の危険や緊急性の状況に合わせての対応をさせて頂いています。玄関の施錠に関しては、入居者様の安全と比較しながら検討をしています。	マニュアルを備えるとともに、法人の年間教育計画に従って毎年研修を行っている。「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の正確な理解を促し、ユニットの出入り口や玄関の施錠等、鍵をはずして安全に過ごせないかを皆で議論し、工夫を重ねている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で高齢者虐待に関する研修を年に2回開催しています。また、グループホームにおいても会議の中で虐待研修を開催しています。また、日頃の言葉かけなどに関しても適正であるかどうかを検討しています。	法人内の全職員に年2回、「高齢者虐待防止」の研修を行っている。今年7月に事業所内で、職員自身や他の職員に虐待に該当するような言動がないかどうかのアンケート調査を行った。その内容を基に管理者が職員と面談し、課題にすることとしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用している方の入居もあるため、勉強会において権利擁護や成年後見制度の内容を開催しています。	入居者の1人が被保佐人の審判を受けており、月1回は保佐人の訪問がある。保佐人から被保佐人の権利擁護の具体的な内容を指導してもらい、これを受けて、管理者を中心に成年後見制度の勉強会を行った。	
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約手続きの際は、時間をとり、管理者から説明をさせて頂いています。	管理者が時間をかけて重要事項説明書、契約書の内容を説明する。特に金銭負担に関する事項は、納得が得られるまで説明するよう努めている。重度化した場合の対応について、契約時に事業所の方針を説明し、出来ること出来ないことを明確にしている。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見に関しては、管理者が承っており、改善が必要な内容に関しては、運営推進会議などで相談や報告をさせて頂いています。	運営推進会議や年1回の家族会で意見を聞く場面を作っている。家族訪問時には接遇に気を配り、その意見は、必要あればユニット会議での検討課題としている。食事に関するアンケートを法人内で実施した。その内容をフィードバックするようにしている。	意見交換の場からでてくる家族の意見は宝です。日頃の生活にもっと入居者自身がかかわれるような家事手伝いのことで時間を過ごせるような配慮を期待しています。
11	(10)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見に関しては、管理者が聞き取りをしています。相談などに関してはその都度対応していますが、年に1、2回面談をするようにしています。	入居者と朝食パンの買出し、ビールフェスタでの外食、ちょっとした職員からの提案も大切にしている。職員が現場で感じたこと、入居者への係わり方等も週1回のユニット会議で集約している。職員1人ひとりの得手、不得手を考慮して配置転換も考える。	
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与の査定に関しては人事考課を取り入れています。職員の状況に関しては、管理者より聞き取りをし、把握ができるようにしています。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況を見て、適正と判断される職員に関しては認知症介護実践者研修などを受講するように勧めています。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	垂水区グループホーム連絡会や地域の事業所の集まりへの参加を勧め、他事業所とも交流できるようにしています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談の段階より、管理者が関わりを持ち、どのような思いを持たれているかを確認しています。入居にあたりその内容を介護の職員へ伝え、ケアに活かせるようにしています。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談の段階より、管理者が関わりを持ち、ご家族としてどのような思いを持たれているかを確認しています。入居後も面会時などに声掛けを行うことで、思われていることを伝えて頂くようにしています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談をされた際に、状況の確認をさせて頂き、グループホームへのご入居が適正かどうかを、ご家族とも相談をさせて頂いています。適正ではないとなった場合は、対応をしていただける事業書を提案させて頂いています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する中で、職員も一緒に過ごす雰囲気を出せるように努めています。レクリエーションや家事も可能な限り一緒にできるようにしています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけが支援をするのではなく、ご家族にも現状を理解していただき、外出レクリエーションの付き添い等、ご家族ご支援して頂ける内容に関しては、協力を依頼するようにしています。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週の礼拝など今まで習慣にされていたことが継続できるよう支援をしています。また、思い出の地への外出や旅行などの支援を計画しています。	東垂水在住の入居者が多く、散歩や買物のときには、知り合い、馴染みの人達と挨拶を交わす。入居者の一人は毎週、日曜礼拝に出かけ、楽しい時を過ごす。台湾生まれの入居者の故郷への家族、職員同伴の旅行計画の話合いが進んでいる。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がお互いに共同生活を送って頂けるよう、一緒に作業をして頂いたり、一緒に外出をしたり支援をしています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去となった場合は、お見舞いに行かせていただいたり、特養などへの転居となった場合は、面会に行かせていただいたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援に関しては、ご本人の意向に沿った支援をするように心がけています。介護計画の作成にあたってご本人、ご家族の意向の確認をさせて頂いています。	入居の計画を進める段階から、本人及び家族から、思いや暮らし方への希望、意向を丁寧に聞き出す。特に、入居者の生活歴は詳細に聞き出す。また、入居後の日々の生活の中で、職員から上がって来る情報を、経過記録にその都度記載している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはこれまでの生活歴や習慣などの把握をさせて頂き、入居後の支援に活かせるようにさせて頂いています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活ではあるが、出来る限りご本人のペースに合わせた支援を提供しています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたり、ご本人、ご家族の意向の確認をしており、また、毎月の会議の中において、各入居者様の現状を職員で振り返りをしています。	毎月のケース検討会議において、入居者の担当職員と計画作成担当者が現状の振り返りを行う。短期目標設定期間の3か月に1回モニタリングを実施すると同時に、介護計画の見直しの要否を確認し、現状に即して短期目標を変更する時は、家族の意見を求めている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況はケース記録に残しており、情報の共有のために、業務日誌にも特記事項を記入するようにしています。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況に合わせて、グループホーム内のサービスだけではなく、外部の支援を相談させていただくこともあります。法人内の他事業所とも連携を取り、以前からの友人とも関わりを持たれている方もおられます。		

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の状況に合わせて、近隣の店舗への買い物や地域行事などへの参加を支援しています。			
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医に関してはご家族とも相談をし、決めています。	入居する前からのかかりつけ医に受診できるよう支援しているが、施設内で往診が受けられる協力病院の医師をかかりつけ医とする入居者が多い。医師の往診時には事前の連絡票による支援を行い、緊急時には、事前確認した家族の意向に沿った対応に努めている。		
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携を取り、健康に関する相談を訪問時にしています。また、急な体調不良で判断に困る場合も日中、夜間問わず相談をさせて頂いています。			
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合は、病院のソーシャルワーカーと連携を取り、ホームでの生活状況報告や退院までの状態の確認をさせて頂いています。	入居者の入院時には、病院側に介護サマリーを提供し、1週間に1回は、主に管理者が見舞いと状態把握に病院を訪問する。退院前の医師からの家族説明には同席している。治療が終わり、リハビリ段階に入ったら、早期退院に向け関係者と連携する。		
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化の指針を説明していません。現在看取りの支援をしていますが、入院や転居が必要となる場合は、ご本人、ご家族の不安ができる限り少ないように支援をしています。	契約時に終末期の看取りの方針を重要事項説明書及び契約書により説明するほか、「入居者が重度化した場合における対応に係る指針」により、看取りに関する考え方、医療機関との連携体制、家族との話し合い及び意思確認の方法を説明し、同意を得ている。	高齢化の深刻化を背景に、終末期の迎え方や場所に意識変化が進んでいます。重度化や終末期に向けた本人・家族等の多様化するニーズへの対応力の涵養を期待します。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、緊急時の対応の訓練を消防署から物品を借り実施しています。			
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施しています。昨年より地域の方にも協力していただき、どのように訓練をしているのかを理解して頂いています。	同一敷地内の法人の他事業所と共同して、毎年、消防訓練(消火訓練、避難訓練、通報訓練)を2回、避難器具と設備の日常点検を1回行っている。訓練には「ふれあいまちづくり協議会」役員に参加があった。秋は、夜間を想定した避難訓練を予定している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に言葉かけに関しては指導を実施しています。また、不適切な言葉使いの場合は、その都度の指導をするように心がけています。	接遇訓練は、法人全体で取組み、その基本は、入居者の尊厳重視にある。責任者が不適切な言葉遣い等に遭遇した時は、その場で注意する。個人情報「個人情報の使用に関する同意書」、「写真掲載確認書」を取り交わし、責任ある取扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご本人の意思を確認し、支援を提供しています。また、意思表示の困難な方に関しては、ご家族に確認をしたりこれまでの生活を考慮して判断をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人の意思を確認し、支援を提供しています。また、意思表示の困難な方に関しては、ご家族に確認をしたりこれまでの生活を考慮して判断をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服に関しては、ご本人の好まれるものを準備して頂いています。夜間のパジャマも同様です。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まったメニューで提供していますが、入居者様の好みを聞き取りし、食事レクなどを用いて好きなものの提供も行っています。	所属長会議で入居者の希望のメニュー案を協議し、食事委員会が決定する。食事レクレーションには、入居者希望の食事を職員と共に楽しむ。中庭でのバーベキューは好評で、たこ焼き、ケーキ等のおやつ造りは大人気です。定期の外食には、家族を誘っている。	食事は、入居者に喜びや楽しみをもたらします。「食」に関する様々な取り組みを生かすためにも、事業所の特性を踏まえた入居者と職員とが、日頃から一緒に食事を楽める工夫を期待しています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は日に1500mlを目標として提供することで脱水の予防に努めています。食事は昼食、夕食を管理栄養士によりメニュー作成をしてもらい、栄養管理をもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、必要であれば訪問歯科診療を相談させていただいています。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある方も含め、トイレでの排泄を維持できるように支援方法や道具の検討を行っています。	トイレでの排泄を維持できるよう支援する。食事と水分摂取量を記録して管理し、排泄チェック表を用い、下剤に頼らない排便排泄誘導を行っている。専門業者から適正なおむつの選び方、当て方を学び直し、誘導時の言葉遣いにも気を配る研修を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な排便が確保できるように、水分量や食事の内容、運動量を検討しています。必要な場合は主治医とも相談をし、屯用の下剤を使用しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	間隔があかないように調整していますが、時間などはご本人の生活習慣も考慮して検討しています。	個浴で昼食後の午後入浴を原則とするが、入浴を拒む方には、夕食後に再度声掛けをする。バスボードで楽に入浴できる。季節には、しょうぶ湯やゆず湯を楽しむ。冬場には、湯船に入浴剤を入れ、温まりやすくしている。機械浴による対応も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態を観察し、睡眠時間の把握に努めるとともに、不眠の場合は、精神状態や日中の過ごし方も検討し、夜間に睡眠確保に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方内容を把握できるよう、薬情の管理をするとともに、薬の変更があった場合は、その薬の効能や副作用を共有できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限りホームでの生活において、掃除や買い物、ゴミ捨て等の役割を持っていただけるように支援を検討しています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りご本人の希望にそって外出や買い物等の支援を提供しています。また、ご家族にも協力をしていただき定期での外出レクを提供しています。	午前と午後に出外や散歩に当てる時間を設ける日程を組み、近くの公園への散歩や犬の散歩に出かける。朝食用のパンの買出し、スーパーやホームセンターでの買物も入居者と一緒に出掛ける。日曜礼拝への支援も続けている。家族との外出を働きかけている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方に関しては、金銭を所持して頂いています。買い物時には、見守りの元、ご自分で支払いをしていただくこともあります。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安が大きい場合は、ご家族に協力をしていただき、電話をかけて頂くことも支援しています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に関しては、季節感を感じていただき居心地の良い空間であるように、環境を考慮しています。	ダイニングテーブルとソファが広いフロアに、ゆったりと配置され、整理整頓が隅々まで行き届いている。事業主のこだわりの調度品と季節感のある入居者の作品が共に飾られ安定感を醸し出している。3種の照明器具で居住空間の明るさにも配慮している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ個室ではあるが、共用の空間で一緒に過ごせる環境を考慮しています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては、安全を考慮した上で、好みの物を持ち込んで頂き、安心して過ごしていただける空間を提供しています。	居室はダイニング・リビングに直結し、扉から見渡せる。空調・照明器具、洗面台の他、ベッドとタンスを備えるが、持込は、火元となる物を除いて、制限を設けていない。家具の配置には、安全を優先する。入居者が居室に閉じこもらないよう、目配りしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	施設内は安全に生活動作ができるよう配慮をしており、また、残された能力を発揮して頂けるように支援を提供しています。		